

リハビリテーション 医学



contents

● 序 安保雅博

第Ⅰ章 総論

① リハビリテーション医学・医療の理念	石井文康	22
① リハビリテーション医学・医療の成立		22
② リハビリテーション医学・医療の定義		23
③ 総合リハビリテーション医療、ノーマライゼーション、自立生活		24
1) 総合リハビリテーション医療 2) ノーマライゼーション 3) 自立生活		
④ ADL（日常生活動作）と IADL（手段的日常生活動作）		25
1) ADL 2) IADL 3) ADLとIADLの評価		
コラム① 作業療法における QOL 評価法	大瀧直人	29
② 障害	重國宏次	30
① 障害とは		30
1) わが国の法的な定義 2) わが国の障害者的人口		
② 身体障害・知的障害・精神障害		31
1) 身体障害 2) 知的障害 3) 精神障害		
③ WHOが提唱する障害の階層構造		32
1) 国際障害分類 (ICIDH) 2) 国際生活機能分類 (ICF)		
③ チーム医療	林 弘康	35
① 包括的リハビリテーション医療の概念		35
1) 包括的リハビリテーション医療 2) リハビリテーション医学・医療の主要分野		
② チームを形成する職種とそれぞれの役割		36
③ 地域におけるチーム医療		36
④ 各ステージにおけるリハビリテーション医療とその特徴	岡本隆嗣	38
① 日本の医療・介護機能の再編		38
② 急性期のリハビリテーション医学・医療		39

③ 回復期のリハビリテーション医学・医療	40
④ 生活期（維持期）のリハビリテーション医学・医療	41
⑤ 運動療法	小林 武 42
① 運動療法とは	42
② 筋力増強運動	43
1) 筋力とは 2) 筋収縮の様式（等尺性・等張性・等速性） 3) 筋力増強（最大筋力と筋持久力の増強） 4) 持久力強化練習の基本	
③ 関節可動域練習（ROM 練習）	46
1) 関節の構造 2) 関節可動域制限の種類 3) 関節拘縮の原因 4) ROM 練習の基本	
④ 有酸素運動	48
1) 運動生理学の基礎（エネルギー、呼吸） 2) 有酸素運動の特徴	
⑤ 協調性練習	51
1) 協調性（coordination）とは 2) 運動・動作の協調性練習	
⑥ 物理療法	庄本康治 53
① 物理療法の歴史と定義	53
1) 物理療法の歴史 2) 本邦での物理療法の定義	
② 各種の物理療法	54
1) 温熱療法 2) 寒冷療法 3) 電気刺激療法 4) 水治療法 5) 光線療法 6) 牽引療法 7) 圧迫療法、マッサージ	
⑦ 作業療法	出口弦舞 62
① 作業療法における「作業」	62
② 作業療法における「作業」の分類	63
③ 作業療法の歴史	63
④ 作業療法の定義	63
⑤ 作業療法の対象	65
⑥ 作業療法の目的	65
⑦ 作業療法の流れ	66
⑧ 作業療法士が求められる場	66
⑧ 装具・義肢・車椅子	岡本絵里加 68
① 装具	68
1) 装具とは 2) 装具の役割 3) 上肢装具の分類と適応 4) 下肢装具の分類と適応 5) 体幹装具の分類と適応	
② 義肢	72
1) 義肢とは 2) 義肢の役割 3) 義手 4) 義足	
③ 車椅子	76
1) 車椅子とは 2) 車椅子各部の名称 3) 車椅子の種類 4) 車椅子の適合	

⑨ 住環境整備・自助具	岡本絵里加	79
1 住環境整備（住宅改修）		79
1) 住宅改修のチェックポイント 2) 高齢者の住宅環境		
2 自助具（福祉用具）		80
1) 自助具の用途 2) 各種自助具の用途		
⑩ 地域リハビリテーション医療	小林隆司	83
1 地域リハビリテーション医療とは		83
2 地域包括ケアシステム		83
1) 考え方 2) 地域ケア会議		
3 訪問リハビリテーション医療		85
4 通所リハビリテーション医療		85
⑪ 職業リハビリテーション	石川 篤	87
1 職業リハビリテーションとは		87
1) 定義・目的 2) 就労支援のしくみ 3) 法律・制度		
2 職業リハビリテーションで用いる評価		89
⑫ リスク管理	新見昌央	93
1 リスク管理とは		93
2 急性期～回復期のリハビリテーション治療における主なリスク		93
1) 再発・再燃 2) 転倒・転落 3) 起立性低血圧 4) てんかん発作 5) 深部静脈血栓症		
3 リハビリテーション治療の中止基準		95
1) 積極的なリハビリテーション治療を実施しない場合 2) 途中でリハビリテーション治療を中止する場合 3) いったんリハビリテーション治療を中止し、回復を待って再開する場合 4) その他、中止すべきか注意が必要な場合		
4 主な薬剤に関するリスク管理		96
1) ワルファリン 2) A型ボツリヌス毒素 3) 抗パーキンソン病薬 4) インスリン		
⑬ 廃用症候群	西村行秀	98
1 廃用症候群とは		98
2 廃用症候群により引き起こされる身体への影響		99
1) 筋骨格 2) 呼吸・循環器 3) 消化器 4) 泌尿器 5) 神経系 6) その他		
⑭ 生理検査—心電図、筋電図、脳波	野尻明由美、政木隆博、須江洋成	101
1 生理検査とは		101
2 心電図		101
1) 心電図の基礎 2) 基本波形 3) 異常心電図の種類と特徴		
3 筋電図		109
1) 筋電図の基礎と目的 2) 神経原性疾患と筋原性疾患の筋電図波形の違い 3) 神経伝導速度		

④ 脳波	111
1) 脳波の基礎 2) 正常脳波 3) 異常脳波 4) 脳波検査の対象となる病態・疾患 5) 脳波と関連した検査	
⑯ 画像検査—X線, CT, MRI, SPECT, PET	115
① 画像検査とは	115
② X線検査	115
1) 原理 2) 読み方	
③ 頭部CT検査	116
1) 原理 2) 読み方	
④ 頭部MRI検査	117
1) 原理 2) 読み方 3) MRA 4) 機能的MRI (functional-MRI : fMRI)	
⑤ CTとMRIの比較	121
⑥ 脳血流SPECT (脳血流シンチグラフィ)	121
⑦ PET (ポジトロン放射断層撮影法)	122
⑯ 制度・法律	123
① 介護保険制度	123
1) 概要 2) 貸与対象となっている福祉用具 3) 特定疾病	
② 障害者総合支援法	125
③ 障害者手帳制度	125
④ 障害年金制度	126
⑤ 難病法 (難病の患者に対する医療等に関する法律)	127
⑥ 自立支援医療制度	127
⑦ 労働者災害補償保険法	127
⑧ 自動車損害賠償保障法	127
⑨ 個人情報保護法 (個人情報の保護に関する法律)	128
⑩ 理学療法士及び作業療法士法	128

第二章 障害各論

① 運動障害	130
① 運動麻痺	130
1) 中枢性運動麻痺 (上位運動ニューロン障害) 2) 錐体外路障害 3) 末梢性運動麻痺 (下位運動ニューロン障害)	
② 筋力低下	132
1) 筋力低下の要因 2) ベッドレストと加齢の筋力低下の違い 3) 筋力評価	
③ 関節可動域制限	133
1) 関節可動域制限因子 2) 関節可動域制限の評価	

④ 痙縮と固縮の評価	134
⑤ 運動失調	134
1) 運動失調の種類 2) 協調運動障害の主な症状 3) 運動失調の評価	
⑥ 姿勢・歩行障害	136
1) 抗重力姿勢の特徴と姿勢障害の種類 2) 歩行障害	
② 内部障害	竹川 徹 139
① 内部障害とは	139
② 呼吸器およびその機能評価と障害	139
1) 呼吸器系の概要 2) 肺と呼吸運動 3) 肺気量と呼吸 4) 呼吸による酸塩基調節 5) リハビリテーション治療に必要なアセスメント 6) 呼吸不全	
③ 循環器およびその機能評価と高血圧症	142
1) 循環器系の概要 2) 心臓と心膜 3) X線写真 4) 刺激伝導系 5) 心電図 6) 心臓活動とその調節 7) 循環動態の調節 8) 高血圧症 9) 運動負荷試験およびその指標	
④ 代謝とその障害	147
1) 基礎代謝量 2) エネルギー代謝率 (RMR) 3) 脂質異常症 4) 肥満	
③ 高次脳機能障害	渡邊 修 149
① 高次脳機能障害とは	149
② 厚生労働省が定義する高次脳機能障害	150
③ 主な高次脳機能障害	150
1) 注意障害 2) 遂行機能障害 3) 失語症 4) 失行症 5) 失読失書 6) ゲルストマン症候群 7) 半側空間無視 8) 半側身体失認 9) 地誌的障害 10) 着衣失行 11) 相貌失認 12) 構成失行 13) バリント症候群 14) アントン症候群 15) 道具の強迫的使用 16) 他人の手兆候 (alien hand) 17) 運動維持困難 (motor impersistence) 18) 記憶障害 19) 社会的行動障害	
④ 評価およびリハビリテーション治療	157
1) 総合的評価 2) 評価およびリハビリテーション治療	
④ 心理社会的障害	互 健二 159
① 心理社会的障害とは	159
② うつ状態	159
③ 易怒性	160
⑤ 摂食嚥下障害	岡本隆嗣, 佐藤新介 161
① 摂食嚥下障害とは	161
② 嚥下のメカニズム	161
1) 嚥下の解剖 2) 嚥下の病態 3) 正常嚥下のメカニズム (5期分類)	
③ 嚥下障害の簡易評価法	163
④ 嚥下障害に対するリハビリテーション治療	163
1) 間接練習 (食べ物を用いないで, 嚥下機能を改善させる練習) 2) 直接練習 (食べ物を用いて, 嚥下機能を改善させる練習)	

5 摂食障害	165
1) 主な症状 2) 特徴的な精神異常 3) 摂食障害に対するリハビリテーション治療	
6 言語機能障害	166
1 失語症	166
1) 分類と評価 2) 発語にかかわる諸症状 3) 失語症への対応・トレーニング	
2 構音障害	169
7 視覚障害	171
1 視覚障害とは	171
2 視覚障害の原因疾患	171
3 視覚障害者に対するリハビリテーション治療	172
1) 感覚訓練 2) 日常生活訓練 3) コミュニケーション訓練 4) 歩行訓練	
8 排泄機能障害	174
1 排泄とは	174
1) 尿の生成と排尿 2) 便の形成と排便 3) 神経支配	
2 排尿・排便のメカニズム	175
1) 蓄尿と排尿反射 2) 排便反射	
3 排尿・排便の機能障害	177
1) 神経因性膀胱・直腸障害 2) その他の排尿障害 3) その他の排便障害	
9 意識障害	180
1 意識とは	180
2 意識にかかわる脳の部位とその役割	180
3 意識障害をきたす疾患とその病態	180
1) 脳血管障害（脳卒中） 2) 脳外傷 3) 低酸素脳症 4) 全身性疾患	
4 意識障害の評価	182

第Ⅲ章 疾患各論

1 脳血管障害（脳卒中）	184
1 脳血管障害とは	184
2 脳梗塞	184
1) 血管系 2) 脳梗塞の分類と特徴 3) 急性期の治療	
4) 一過性脳虚血発作 (Transient Ischemic Attack : TIA)	
5) 前大脳動脈、中大脳動脈、後大脳動脈の閉塞と主な症状	
6) 椎骨動脈、脳底動脈の閉塞と主な症状	
3 脳出血	187
1) 主な脳出血（5種類） 2) 急性期の治療 3) 高血圧以外の脳出血	

4	くも膜下出血	190
1)	経過と治療 2) 頻度の高い脳動脈瘤とその特徴	
■	片麻痺に対するリハビリテーション治療のポイント	192
1)	理学療法のポイント 2) 作業療法のポイント	
コラム② 筋緊張の亢進による手指の拘縮について		唐渡弘起 199
コラム③ ニューロリハビリテーション		原 寛美 200
②	脳外傷・低酸素脳症・脳腫瘍・水頭症 — 渡邊 修, 松田雅弘, 大熊 謙	202
1	脳外傷	202
1)	分類 2) 重症度評価 3) 治療 4) 障害像	
■	リハビリテーション治療のポイント	205
1)	脳外傷後の問題点 2) 記憶障害へのアプローチ 3) 注意障害へのアプローチ 4) 遂行機能障害へのアプローチ 5) 自己認識の低下へのアプローチ 6) 社会的行動障害へのアプローチ 7) ADL・IADL 練習へのアプローチ 8) 環境調整や家族指導へのアプローチ 9) 就労支援へのアプローチ 10) 地域連携へ向けたアプローチ	
2	低酸素脳症	207
1)	病態と原因 2) 低酸素脳症後の遅発性神経症状 3) 障害像 4) リハビリテーション治療のポイント	
3	脳腫瘍	208
1)	分類と発生頻度 2) WHOの悪性度分類 3) 症状 4) 下垂体腺腫 5) リハビリテーション治療のポイント	
4	水頭症	211
1)	概略 2) 正常圧水頭症 3) リハビリテーション治療のポイント	
コラム④ 障害と自動車運転		渡邊 修 212
③	脊髄損傷	214
1	脊髄損傷とは	214
2	脊髄損傷の病態	214
1)	排尿障害 2) 排便障害 3) 褥瘡 4) 自律神経過反射 5) 異所性骨化 6) その他	
3	脊髄損傷の評価	215
1)	アメリカ脊髄損傷学会(ASIA)の神経学的評価 2) Frankelの分類 3) Zancolliの上肢機能分類 4) 臨床症状分類	
4	脊髄損傷の運動療法	219
1)	急性期 2) 回復期	
5	胸腰髄損傷	219
■	リハビリテーション治療のポイント	220
1)	理学療法のポイント 2) 作業療法のポイント	

コラム⑤ 車椅子の介助方法	大瀧直人	225
④ 腕神経叢にかかわる疾患	三谷管雄, 林原雅子	226
1 腕神経叢にかかわる疾患		226
2 腕神経叢と胸郭出口の解剖学的特徴		226
3 腕神経叢引き抜き損傷		228
1) 損傷レベルで起こりうる症状 2) 腕神経叢引き抜き損傷の治療とリハビリテーション治療		
■ リハビリテーション治療のポイント		229
4 胸郭出口症候群		229
1) 胸郭出口症候群の発症と解剖学的構造 2) 症状 3) 検査と治療		
■ リハビリテーション治療のポイント		230
⑤ 神経・筋疾患	角田 亘, 佐藤 慎, 府川泰久, 川田寛子, 相原真季	232
1 神経・筋疾患とは		232
2 パーキンソン病 (Parkinson's disease : PD)		232
3 多発性硬化症 (multiple sclerosis : MS)		234
4 重症筋無力症 (myasthenia gravis : MG)		234
5 ギラン・バレー症候群 (Guillain-Barre syndrome : GBS)		235
6 筋萎縮性側索硬化症 (amyotrophic lateral sclerosis : ALS)		235
7 脊髄小脳変性症 (spinocerebellar degeneration : SCD)		236
8 多発性筋炎 (polymyositis : PM) / 皮膚筋炎 (dermatomyositis : DM)		237
9 筋ジストロフィー (myotonic dystrophy : MD)		237
10 多系統萎縮症 (multiple system atrophy : MSA)		238
■ リハビリテーション治療のポイント		238
1) パーキンソン病 (PD) 2) 多発性硬化症 (MS) 3) 重症筋無力症 (MG) 4) ギラン・バレー症候群 (GBS) 5) 筋萎縮性側索硬化症 (ALS) 6) 脊髄小脳変性症 (SCD) 7) 多発性筋炎 (PM) / 皮膚筋炎 (DM) 8) 筋ジストロフィー (MD) 9) 多系統萎縮症 (MSA)		
⑥ 骨・関節疾患	馬庭壯吉, 江草典政, 森脇繁登	244
1 骨・関節疾患とは		244
2 主な上肢の骨・関節疾患		244
1) 鎖骨骨折 2) 上腕骨近位部骨折 3) 橋骨遠位部骨折 4) 肩関節周囲炎 5) 腱板断裂		
3 主な下肢の骨・関節疾患		248
1) 骨盤骨折 2) 大腿骨頸部骨折・大腿骨転子部骨折 3) 变形性股関節症 4) 变形性膝関節症 5) 前十字靱帯損傷 6) 半月板損傷 7) 足関節靱帯損傷		
4 関節リウマチ		252
5 脊椎疾患		255
1) 頸椎症 2) 頸椎椎間板ヘルニア 3) 腰痛症 4) 腰椎椎間板ヘルニア 5) 腰部脊柱管狭窄症 6) 側弯症		

6	その他の骨・関節疾患	258		
1)	発育性股関節形成不全	2) ペルテス（Perthes）病	3) 大腿骨頭すべり症	
4)	小児に多い上腕骨頸上骨折			
5)	複合性局所疼痛症候群（Complex Regional Pain Syndrome : CRPS）			
7	循環器疾患	262		
1	循環器疾患とは	262		
2	冠動脈	262		
3	狭心症	263		
1)	病因, 病態	2) 不安定型狭心症	3) 検査方法	
4	心筋梗塞	263		
1)	病因, 病態	2) 心筋梗塞の分類	3) 急性心筋梗塞の病態, 評価	
4)	心筋梗塞の診断基準	5) 心筋梗塞後の合併症		
5	虚血性心疾患の治療方法	266		
1)	薬物治療	2) 経皮的冠動脈形成術（Percutaneous Coronary Intervention : PCI）		
3)	冠動脈バイパス術（Coronary Artery Bypass Grafting : CABG）			
6	心不全	266		
1)	病因, 病態	2) 診断	3) 治療	
7	注意すべき不整脈	267		
1)	頻脈性不整脈	2) 徐脈性不整脈		
リハビリテーション治療のポイント		269		
1)	運動療法の効果	2) 運動処方の進め方	3) 運動処方のための指標	4) 生活指導
8	呼吸器疾患	272		
1	呼吸器の構造と機能	272		
2	呼吸不全	275		
1)	閉塞性肺疾患	2) 拘束性肺疾患		
呼吸リハビリテーションのポイント		277		
1)	定義	2) 包括的呼吸リハビリテーション	3) 目的	
4)	COPDにおける呼吸リハビリテーションの有効性	5) 評価		
理学療法のポイント		282		
1)	運動療法の進め方	2) コンディショニング	3) 運動療法	
作業療法のポイント		286		
1)	洗顔	2) 下衣の着脱	3) 上衣の着脱	4) トイレ動作
9	腎疾患	288		
1	腎疾患とは	288		
2	腎臓の機能	288		
1)	排泄臓器としての機能（細胞外液の恒常性を維持）	2) 内分泌臓器としての機能		
3	腎機能評価	289		
1)	糸球体濾過量	2) 尿タンパク		

4	保存期慢性腎臓病（CKD）	289
1)	原因による分類 2) 特徴 3) 治療 4) リハビリテーション治療の評価	
5	末期腎不全（ESKD）患者の透析治療	292
1)	透析治療導入患者の原疾患 2) 特徴 3) 治療 4) リハビリテーション治療の評価	
■	リハビリテーション治療のポイント	294
1)	保存期慢性腎臓病（CKD） 2) 透析症例	
10	小児疾患	297
1	小児疾患とは	297
2	発達	297
3	在胎週数・出生時体重による分類	299
1)	在胎週数 2) 出生時体重	
4	脳性麻痺	299
1)	定義 2) 発症率 3) 発症要因 4) 分類 5) 脳性麻痺のための評価法 6) 理学療法	
5	二分脊椎	302
1)	定義 2) 分類 3) 二分脊椎の損傷レベルと拘縮、歩行能力 4) 理学療法	
6	発達障害	304
1)	定義 2) 知的障害 3) 広汎性発達障害（pervasive developmental disorder : PDD） 4) 注意欠如・多動性障害（attention deficit/hyperactivity disorder : ADHD） 5) 学習障害（learning disorder : LD）	
7	重症心身障害児	305
1)	評価 2) 治療のポイント	
■	理学療法のポイント	307
■	作業療法のポイント	307
1)	機能的作業療法 2) 認知機能障害に対する作業療法 3) ADLの指導	
11	スポーツ疾患	310
1	スポーツ疾患とは	310
2	上肢のスポーツ外傷	310
1)	肩関節周囲の外傷 2) 肘関節の外傷 3) 手指のスポーツ外傷	
3	上肢のスポーツ障害	311
1)	投球障害 2) テニス肘	
4	腰部のスポーツ障害	313
1)	腰椎椎間板ヘルニア 2) 腰椎分離症	
5	下肢のスポーツ外傷	314
1)	膝関節の前十字靱帯損傷 2) 足関節内反捻挫	
6	下肢のスポーツ障害	315
7	スポーツ外傷の応急処置	316
■	リハビリテーション治療のポイント	316
1)	傷害の治癒過程の把握 2) 損傷部位の役割の理解 3) 損傷のメカニズムの理解	

⑫ 末梢神経障害（ニューロパシー）	君浦隆ノ介, 唐渡弘起, 佐々木庸一	318
1 末梢神経障害とは		318
2 代表的な末梢神経障害		318
1) 代謝性疾患による末梢神経障害（糖尿病性末梢神経障害）		
2) 栄養・アルコール性末梢神経障害	3) 薬剤性末梢神経障害	4) 遺伝性末梢神経障害
5) 炎症性末梢神経障害	6) 紋扼性ニューロパシー	7) 外傷性ニューロパシー
8) がん性（悪性潰瘍）ニューロパシー	9) Horner症候群	
リハビリテーション治療のポイント		323
1) 麻痺期	2) 回復期	3) 物理療法
4) 末梢神経障害の作業療法		
5) 末梢神経障害の理学療法		
⑬ 切断	羽田康司, 丸山 剛, 久保匡史	327
1 切断とは		327
1) 切断の原因	2) 切断の合併症	3) 切断の位置
2 断端の評価と管理		328
1) 断端評価	2) 断端管理	
リハビリテーション治療のポイント		329
1) 切断部位と注意点	2) 理学療法のポイント	3) 作業療法のポイント
⑭ がん	原 貴敏, 林 友則, 田中智子	334
1 がんとは		334
1) がんの発症メカニズム, 種類・進展様式	2) がん悪液質（カヘキシア）	
2 がんの治療		335
1) 手術療法	2) 化学療法	3) 放射線治療
3 がん患者に対するリハビリテーション治療の対象となる障害の種類		336
4 がん患者の身体機能の評価		337
5 緩和ケアとリハビリテーション治療		338
6 AIDS		338
1) リハビリテーション治療の実施における注意点	2) AIDSによる障害	
リハビリテーション治療のポイント		339
1) 理学療法のポイント	2) 作業療法のポイント	
⑮ 高齢者	百崎 良, 春日成二, 長野正幸	343
1 高齢者の特徴		343
2 骨粗鬆症		343
3 転倒		344
4 フレイル		344
5 ロコモティブシンドローム（ロコモ）		345
6 サルコペニア		345
7 介護予防		346

■ リハビリテーション治療のポイント	346
1) 理学療法のポイント 2) 作業療法のポイント	
⑯ 热傷	350
1 热傷とは	350
2 热傷傷病期	351
3 重症度判断の尺度	351
4 热傷の部位と特徴	353
■ リハビリテーション治療の際に評価・把握しておくこと	353
1) 急性期 2) 回復期・慢性期	
■ リハビリテーション治療のポイント（理学療法士・作業療法士共通）	354
■ リハビリテーション治療のポイント（作業療法士の観点から）	355
⑰ 障害者スポーツ	356
1 障害者スポーツ、パラリンピックの歴史	356
2 障害者におけるスポーツの有用性	356
3 障害者における医学的問題点、メディカルチェック	357
1) 脊髄損傷者における注意点 2) 四肢の切断者における注意点 3) 脳血管障害患者における注意点 4) 脳性麻痺患者における注意点	
4 障害者スポーツの種目、クラス分け、アンチドーピング	358
1) 種目 2) クラス分け 3) アンチドーピング	
5 障害者スポーツの振興	361
⑲ 認知症—アルツハイマー型、Lewy小体型、前頭側頭型	
互 健二、上薗紗映、長尾也	362
1 認知症とは	362
2 アルツハイマー型認知症	362
1) 臨床症状 2) 診断 3) 治療	
3 Lewy小体型認知症	364
1) 臨床症状 2) 診断 3) 治療	
4 前頭側頭型認知症	365
1) 臨床症状 2) 診断 3) 治療	
■ リハビリテーション治療のポイント	366
1) 情報収集を入念に行う 2) 患者の感情と認知に配慮する	
⑲ 精神疾患	368
1 精神疾患とは	368
2 うつ病	368
1) うつ病とは 2) 診断基準 3) 原因 4) リハビリテーション治療	
3 統合失調症	370
1) 統合失調症とは 2) 症状 3) リハビリテーション治療	

4	アルコール依存症	371
1)	アルコール依存症とは 2) 症状 3) 治療 4) リハビリテーション治療	
5	パーソナリティ障害	372
1)	パーソナリティ障害とは 2) リハビリテーション治療	
6	神経性無食欲症	372
1)	神経性無食欲症とは 2) 治療 3) リハビリテーション治療	
■	リハビリテーション治療のポイント	373
1)	治療にあたっての心構え 2) 理学療法のポイント 3) 作業療法のポイント	
■	認知行動療法	377
1)	認知行動療法の成り立ち 2) 認知行動療法とは 3) 認知行動療法による治療の流れ	
■	心神喪失者等医療観察法	378
1)	心神喪失者等医療観察法 2) 多職種チーム医療	
20	生活習慣病	381
1	生活習慣病とは	381
2	糖尿病	381
1)	糖尿病とは 2) 糖尿病の分類 3) 糖尿病の診断	
4)	糖尿病の治療目標およびコントロール目標 5) 糖尿病の症状と合併症 6) 糖尿病の治療	
3	高血圧	385
1)	高血圧とは 2) 高血圧の分類 3) 高血圧の治療	
4	肥満	387
1)	肥満・肥満症とは 2) 肥満の判定と肥満症の診断基準 3) 肥満の治療	
5	脂質異常症（高脂血症）	388
1)	脂質異常症の診断基準 2) 脂質異常症の原因 3) 脂質異常症の治療	
■	リハビリテーション治療のポイント	388
1)	評価 2) 運動療法 3) 患者教育	
21	主な感染症	392
1	感染症とは	392
2	感染経路と日和見感染症	392
1)	感染経路 2) 日和見感染症	
3	代表的な感染症	393
1)	インフルエンザ 2) MRSA（メチシリン耐性黄色ブドウ球菌）感染症 3) 結核	
4)	疥癬（かいせん） 5) 黄色ブドウ球菌による食中毒	
4	院内感染、感染予防	395
1)	院内感染とは 2) 感染予防	
■	リハビリテーション治療のポイント	396
1)	感染管理の基本 2) 手指衛生 3) 個人防護具 4) リハビリテーション治療室の環境整備	

22 前庭機能障害	浅井友詞, 中山明峰	398
1 前庭の解剖と機能		398
1) 前庭器 2) 情報伝達経路 3) 前庭機能		
2 代表的な前庭疾患		400
1) 良性発作性頭位めまい症 2) メニエール病 3) 前庭神経炎 4) 両側前庭機能障害 5) 加齢		
3 前庭機能障害を見据えためまい, ふらつきの評価		402
1) 医療面接 2) 眼振の評価 3) 前庭眼反射の評価 4) 姿勢安定性の評価 5) 質問紙法		
リハビリテーション治療のポイント		403
1) 半規管の障害（良性発作性頭位めまい症）に対する頭位変換 2) 前庭機能低下に対するリハビリテーション治療		
23 ポストポリオ症候群	角田 亘, 善田督史	408
1 ポストポリオ症候群とは		408
2 症状と診断		409
理学療法のポイント		409
作業療法のポイント		410
コラム⑥ 診療記録（SOAP）とジェノグラム	中山恭秀	411

巻末資料

1 整形外科の検査法	馬庭壯吉	412
2 高次脳機能障害の主要な検査法	渡邊 修	414
● 索引		415